

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）

(実施期間：平成27～令和2年度)

代表機関：山形大学（総括責任者：玉手 英利）

共同実施機関：山形県立米沢栄養大学、大日本印刷株式会社研究開発センター

取組の概要

(1) 連携体制

「有機エレクトロニクスを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画」をテーマに、既に連携を進めている3機関が女性研究者支援体制を整え、より積極的に女性研究者の参画を促し、研究力を強化する取組を行う。各機関の学長、センター長のリーダーシップのもと、3機関によるダイバーシティ連携推進会議で緊密な連絡調整を図りながら実施する。

(2) 活動内容

3機関がそれぞれの特徴や得意分野を活かして活動する。①山形大学米沢キャンパス（工学部）に男女共同参画推進室の米沢分室（ダイバーシティ連携推進会議事務局）を設置すると共に、ワーク・ライフ・バランス相談室や託児ルームを開設し、女性研究者の共同研究環境を整える。②共同研究に従事するライフイベント中の男女研究者の支援制度を構築する。③女性が代表となる共同研究の開発と研究費支援制度を構築する。女性の研究力向上を通して研究者及び上位職の増加を図る。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	実施期間終了後の取組の継続性・発展性
A	b	s	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

有機エレクトロニクスという特色ある分野を軸に3機関が連携し、有機エレクトロニクス技術と栄養学を融合させた健康に関する新たな研究テーマの女性研究者による創出や実践、研究成果の社会実装を支援するとともに、有機エレクトロニクス・有機材料システム等の研究を進める代表機関のセンター・オブ・イノベーション（COI）との連携を進め女性研究者の活躍を促進したことは評価できる。また、女性研究者を取り巻く研究環境整備については、看護師を配置した企業主導型学内保育所の創設、連携機関への巡回相談を行う「相談員制度」や連携機関で共有する「研究支援員制度」の構築等、女性研究者・技術者のニーズを踏まえた取組を実施した。「女性代表共同研究費支援制度」や「サービスデザインプロジェクト（共創ワークショップ）」等の研究力向上を目指した取組の実施により、科研費新規採択率が有意に向上する成果が挙がっており評価できる。今後も、3機関の連携を維持し、山形地域における女性研究者の活躍促進を牽引することを期待する。

- ・ **目標達成度**：3機関ともに、女性研究者の採用比率に係る目標を大幅に上回り達成したことは評価できる。しかしながら、代表機関及び共同実施機関の山形県立米沢栄養大学においては、

女性研究者の在職比率、上位職比率に係る目標が達成できなかった。その要因として女性研究者の他機関への異動を挙げているが、研究・教育業績に見合った上位職への積極的な登用など女性研究者の定着を図る取組の策定を期待する。

- **取組**：有機エレクトロニクスをキーワードに、共同実施機関の大日本印刷（株）研究開発センターの強みを活かす「サービスデザインプロジェクト」の取組を展開するとともに、代表機関のCOIと連携した取組を進め、女性研究者の研究力向上、リーダーシップの育成を図ったこと、また、看護師を配置した企業主導型学内保育所を創設したことは特色ある取組として高く評価できる。
- **取組の成果**：3機関が連携し、「女性代表共同研究費支援制度」、「サービスデザインプロジェクト」等の研究力向上を目指した取組を実施したことにより、女性研究者の科研費新規採択率が有意に向上し、また、代表機関のCOIに参画する女性研究者が2名から22名に大幅に増加したことは評価できる。代表機関において、教員の女性限定・優先公募を積極的に実施し、女性研究者の採用を大幅に増加させたことは評価できる。
- **実施体制**：3機関の長のリーダーシップの下、「ダイバーシティ連携推進会議」を度々開催し、3機関の密接な連携を通じて事業を効果的に実施したことは評価できる。また、「大学コンソーシアム山形ダイバーシティ推進ネットワーク会議」を創設し、山形県内への取組の普及を図っており今後の展開が期待できる。
- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：3機関は「ダイバーシティ研究環境の推進に関する協定書」を締結し、連携体制を維持するとともに、自主経費を確保しこれまでの取組を継続、発展させており評価できる。今後は、「大学コンソーシアム山形ダイバーシティ推進ネットワーク会議」を通じて、山形地域における女性研究者の活躍促進を牽引することを期待する。